

日本保険学会 平成 24 年度第 1 回理事会議事録

●日時：平成 24 年 6 月 8 日（金）17：00～18：15

●場所：損保会館会議室

1．審議事項

（１）入退会者

江澤理事長より 5月分の入会者3名、退会者15名の説明があり異議なく了承された。
なお、文書による承認分を含め、3月～5月の3ヶ月間の合計入会者は18名、退会者は30名であった。

あわせて、学会費滞納者への対応につき、現在、会費2年分滞納者 9名、1年分滞納者13名であるが、今年度より1年以上の会費滞納者には、入金があるまで「保険学雑誌」送付その他、事務局からの連絡を停止することとした、との説明があった。

（２）賛助会員

理事長より 損害保険労働組合連合会を賛助会員とすることが提案され、異議なく了承された。あわせて、その他の賛助会員については、昨年どおりの金額で更新していただける見込みとの報告があった。

（３）大会企画委員会関係

山野大会企画委員長および福田平成24年度大会実行委員長から本日開催された大会企画委員会の内容について、報告があった。

平成24年度大会関係（日本大学商学部にて開催）

- ・ 韓国保険学会からの報告者名ならびに報告テーマが現時点で未定である。
- ・ 主催校の事務ロードを軽減するために、今年から懇親会代と弁当代を事前振込みとすることを試行することとした。

平成25年度大会関係（愛知学院大学にて開催）

- ・ 来年度大会の実施日は、10月26日—27日とすることを確認した。
- ・ 来年度大会の運営チームメンバーならびに「シンポジウム」「共通論題」テーマを以下のとおりとすることが、大会企画委員会にて承認された。

大会運営チーム：山野理事、吉澤理事、恩蔵評議員、潘評議員、河本評議員（5名）

シンポジウム：「債権法改正の保険実務に与える影響」

共通論題：「保険における官民の役割分担について」

なお、シンポジウム、共通論題のテーマについては、昨年実施した評議員アンケートの結果も参考にしたものである。

論議の末、これらを承認した。

平成25年度大会企画委員会委員長

慣例により、平成26年度大会開催校である香川大学の安井評議員に10月から大会企画

委員会委員長（任期1年）を依頼することが承認された。大会企画委員会は、12月以降、新メンバーにて実施する予定である。

（４）平成23年度収支決算書（案）

事務局から平成23年度収支決算書（案）につき、また過去10年間の予算・決算推移につき、それぞれ説明があった。

次いで関東部会、関西部会、九州支部の責任者より、それぞれ平成23年度収支決算状況の報告があり、異議無く承認された。

また、濱監事より監事を代表して監査結果の報告があった。

これらの報告を踏まえ、平成23年度収支決算書（案）を承認した。

（５）平成23年度事業報告書（案）および平成24年度事業計画（案）

事務局より平成23年度事業報告書（案）が提出された。理事長より、時間の関係もあり、今回はこの報告書（案）は審議せずに、各自持ち帰り、意見がある場合は、事務局まで連絡することとするよう提案があり、了承した。

また、平成24年度事業計画（案）は、3月理事会に原案を提出したところ、委員会規則（案）を踏まえた内容にしたかどうか、との理事意見を受け、これを踏まえて再作成したものである。

いずれも、各自検討の上、9月の理事会で最終的に承認するものとした。

（６）名誉会員推薦

理事長より「名誉会員推薦基準に関する理事会申し合わせ事項」（平成16年5月28日、理事会決定）に基づき、下記の2先生を名誉会員に推薦したい旨、提案があった。

田村 祐一郎（元流通科学大学教授）

武田 久義（元桃山学院大学教授）

特に異議なく了承し、10月総会に諮ることになった。

あわせて理事長より、他に候補者はいないと思われるが、もしあれば事務局あて連絡願う、9月理事会に諮りたいとの依頼があった。

（７）第2回日本保険学会賞

押尾 学会賞選考委員会委員長より、本日開催された学会賞選考委員会において

第2回日本保険学会賞を以下のとおり選出したとの報告があった。

日本保険学会賞（論文の部）2点：

・石坂元一（福岡大学）・柳瀬典由（東京経済大学）：

「わが国損害保険業における募集チャネルと費用効率性に関する検証」

（損害保険研究第73巻第2号掲載）

・陳 大為（神戸大学大学院）：

「日本の自動車保険における保険需要に関する実証研究」（保険学雑誌615号掲載）

日本保険学会賞（著書の部）：

・該当なし（賞の対象となる保険学雑誌への「書評」掲載がなかったもの。）

今年は、経済・商学系から論文2本を受賞対象とし、法律系については該当なしとした。この表彰内容につき了承した。なお、会員に対する結果報告ならび表彰式は昨年同様、大会総会時に行うこととした。

あわせて、押尾委員長より、学会賞選考委員会において、日本保険学会賞に新たに「奨励賞」を設けたらどうか、との意見があったとの報告があった。次回、理事会に正式提案を行なうこととした。

(8) 委員会等規則制定

理事長より、前回の理事会において、委員会等規則(案)を論議したところ、竹濱理事から修正提案が出されたことについて説明があった。審議の結果、本日は竹濱理事がご欠席のため、本日の論議を踏まえて、各委員会にて論議いただき、次回理事会にて再度、審議することとなった。

2. 報告事項

(1) 委員会等報告

編集委員会

中浜委員長より、大会、部会報告の「保険学雑誌」掲載状況につき、報告があった。

ホームページ委員会報告

明田委員長より 保険学雑誌の電子ジャーナル化の進め方について、本日、編集委員会とホームページ委員会との打合せが行なわれたとの報告があった。

国際交流委員会

今井委員長が欠席のため、代わりに事務局から以下の報告があった。

- ・ 韓国保険学会大会は、5月18日に実施された。今年も韓国保険学会からの招聘状の到着が遅れた為、当学会からの派遣者については、国際交流委員会に一任されたところ、中林真理子評議員を派遣した。中林評議員が作成した出張報告を添付する。
- ・ AIDA関連情報3点。(a) 2014年大会のメインテーマである「保険契約の透明性」に関する質問状がAIDA本部より、送付されている。来年2月末までに回答する必要がある。(b) AIDA のMichel Gill 理事長作成のPresident's Report が公表されている。(c) 欧州支部の大会が本年9月にロンドンで開催される。

(2) 関東部会、関西部会、九州支部報告

甘利部会長、井口部会長および事務局から 以下の報告があった。

- ・ 関東部会の6月例会は、65名を集め、盛況であった。
- ・ 関西部会では、6月16日に「巨大自然災害のリスク管理」と題して、実務家3名と酒井会員(滋賀大学)による報告会を予定している。
- ・ 九州支部でも、7月22日に東日本大震災関連の公開シンポジウムを予定している。

(3) その他

理事長より、濱監事が、今年6月末付で損保総研理事長を退職することとなったため、

理事会への出席は本日が最後になる、との報告があった。
次いで、濱監事より、お礼の挨拶があった。